

学校評議員会の実施報告書

学校名

岐阜県立可茂特別支援学校

校 長

鈴木 隆司

所在地

美濃加茂市牧野 2007-1 電話 0574-28-3150

- 1 会議の名称 岐阜県立可茂特別支援学校学校評議員会
- 2 会議の構成
- | | | |
|-----|------|-------------------|
| 委 員 | 板津幹彦 | 東和組立株式会社代表取締役 |
| | 大・房夫 | レストラン・リリアーナ経営 |
| | 前田直子 | 可児市発達支援センターくれよん所長 |
| | 水谷 敬 | 元公立学校校長 |
| | 山田康之 | 下米田地区自治会会長 |
- 学 校
- | | |
|------|---------|
| 鈴木隆司 | 校長 |
| 中川智治 | P T A会長 |
| 辻川起和 | 事務部長 |
| 長野武郎 | 教頭 |
| 河合浩司 | 小学部主事 |
| 石原和寿 | 中学部主事 |
| 林 昭男 | 高等部主事 |
| 高井深雪 | 教務主任 |
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を求め、教育活動の活性化につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成28年5月16日(月) 9:30~11:30
可茂特別支援学校 会議室
- 5 会議の概要
- (1) 校長挨拶
 - (2) 学校評議員の委嘱
 - (3) 学校概要説明
 - (4) 授業参観
 - (5) 作業製品の価格設定について(協議)
 - ・高等部主事が作業製品の価格案について説明した。
 - ・価格設定については、適正との判断であり提案された価格に決定した。

○学校評議員の意見

意見1： 地域支援センターがあると聞いている。卒業生の離職者等の社会に出てからの相談対応は支援センターで行われるのか？

→ 卒業生への支援は「追支援」という形で進路支援部が対応している。

意見2： 生徒の作業能力の高さに驚いた。作業製品の価格設定は低いのではないかと思うくらいである。

売り上げはどのように扱われるのか？

→ 作業学習については県から「高等部職業・・・実習事業費」として原材料費等の予算が用意される。売り上げからその令達された分は県に戻し、余剰分で作業に必要な備品を購入している。

意見3： 生徒が増える中、一人一人の実態に応じた作業設定がいろいろと工夫され、それぞれが活躍していると感じた。この学校の立ち上げ時に「卒業後の居場所」もできるという話もあったと記憶しているが、どうなっているのか？

→ 物理的な居場所ではなく、同窓会として卒業生の活動の場、機会を設けている。また、サッカー部は地域のクラブチームとして設立し、卒業生の活躍の場として機能している。今後、より安全な活動の場を保証していくために組織の整備が必要だと考えている。

意見4： スペシャルオリンピックスの活動拠点とはならないか？

→ 障がい者スポーツ協会主催の競技会に参加している生徒もいるが、スペシャルオリンピックスとの関係は課題も多い。施設設備を貸し出すことは可能だが、学校としてスペシャルオリンピックスの運営に関わることは難しい。

意見5： 卒業後の支援は課題も多いがとても重要である。価格設定については、生徒の教材としての価値と、製品としての価値を擦り合わせる事が難しいと感じた。価格が作業意欲とどうつながるのか検討する必要があると思う。

意見6： 当校は非常変災時には地域の避難場所として機能することとなるが、万が一の時に必ずしも管理職が居るとは限らない。各職員がさまざまな状況を想定して対応を準備しておく必要がある。

意見7： 初めての学校内の見学で驚きと感動があった。残念ながら、すぐ近くの地域住民がこの学校のことをよく分かっていないように思われる。今後、地域としての理解を深めるためにも、協力できることがあれば、ぜひ声を掛けていただきたい。

6 会議のまとめ

各委員からは、作業学習をはじめ学習活動について、高い評価をいただくことができています。

卒業後、地域で豊かに生活していくために学校が担うべきこと、非常変災時の対応等、今後の課題についてご意見をいただきました。地域の学校として地域に貢献できることを探りながら、今後もさらなる連携を図っていきたい。